

1 よこすか海洋文化フェア2021

～海洋文化を地域から～

近年、資源エネルギー問題や安全保障問題の面で、一段と海洋の重要性が高まっています。三方を海に囲まれ海と深い関わりの中で特色ある歴史と文化を育んできた横須賀から、「海を知り、海を守り、海を育む」海のまちづくり(国際海の手文化都市)を提唱し続けています。



1 よこすか海洋シンポジウム2021(第23回)

「横須賀と東京湾の交通安全 浦賀燈明堂から観音埼レーダー施設まで」

第1部「浦賀燈明堂から観音埼灯台へ」

講師 山本詔一さん

(横須賀開国史研究会会長 郷土史家)

浦賀燈明堂は、慶安元年(1648年)に、江戸幕府によりわが国初の灯台として建設されました。従来の篝火(かがりび)でなく堂内で菜種油を燃やして明かりを得ていました。観音埼灯台にその役目を譲るまでの歴史について、郷土史家の山本詔一さんに楽しく解説して頂きます。

第2部「起工153周年を迎えた観音埼灯台と日本の灯台」

講師 辰巳屋 誠さん(海上保安庁 第三管区
海上保安本部 交通部長)

観音埼灯台は明治元年(1868年)11月1日に我が国初の洋式灯台として起工され、これに因んで毎年11月1日は「灯台記念日」と定められています。西洋文化の先駆けであった観音埼灯台は、震災による倒壊、再建、改修を重ねており、現灯台は3代目として活躍しています。横須賀のみならず日本を代表する観音埼灯台のあゆみと日本の灯台の現状について、海上保安庁の辰巳屋誠さんに解説して頂きます。



浦賀燈明堂



観音埼灯台

第3部「東京湾海上交通センターと 観音埼レーダー施設」

講師 稲田 健二さん(海上保安庁 第三管区
海上保安本部 東京湾海上交通センター 所長)

旧東京湾海上交通センター(観音埼)は、昭和52年(1977年)に我が国初の海上交通センターとして運用が開始されました。2018年1月1日には、東京湾内の4つの港内交通管制室(東京、千葉、川崎、横浜)と統合する形で横浜市に移転され、新たな東京湾海上交通センターとしてスタートしました。旧東京湾海上交通センターは無人とはいりましたが、引き続き観音埼レーダー施設として重要な役割を担っています。灯台などと同じ航路標識の一つとされている船舶通航信号所として東京湾海上交通センターが果たす役割や船舶航行の安全を確保するための交通ルールとの関係について、海上保安庁の稲田健二さんに解説して頂きます。



東京湾海上交通センター運用室

と き 2021年10月31日(日) 13:30~17:00(開場 13:00)
注)当初2020年度を予定していましたがコロナ禍のため延期しました。

ところ 記念艦「三笠」講堂

参加料 無料

定員 新型コロナウイルス感染症拡大状況に合わせて定員調整を行い感染防止対策を講じます

申込み 募集案内は別途行います

主催 よこすか市民会議(YCC)

後援 横須賀市(公財)横須賀市生涯学習財団
(公社)横須賀商工会議所

2 「1000年の森をつくる会」 (21年目)自然環境の保全と美化

注) コロナ禍のため、活動の中止または内容の変更の可能性もありますが、基本的には新型コロナウイルス感染防止対策をしながら引き続き自然環境の保全と美化を目的とした活動を続けます。

1) 竹林整備

横須賀市のまちかど里親制度に参加して、今年度も衣笠山公園付内の竹林の整備(倒竹、腐竹、枯竹、過密集竹等の伐採と除去及び下草刈り等)を行います。整備作業は月に2回実施します。

2) 竹細工

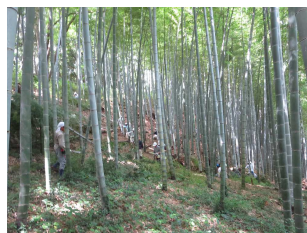
伐採竹材を利用する竹細工においては、会員の竹細工技術向上を目的とした研究会を月に1回、子供たちに物づくりの楽しさを体験してもらう竹細工教室(公園、学校、イベント会場等に於いて)は今年度は12回以上を目標としています。

3) 植樹

現在は規模を縮小して、染井吉野など観賞用の桜の苗木をメンバー有志で育てていますが、接ぎ木が成功して植樹できるように育った苗木は衣笠山公園周辺の空き地に随時植えていくことにしています。本年度から植樹を始める予定です。

主催 よこすか市民会議(YCC)

後援 横須賀市(公財)横須賀市生涯学習財団
(公社)横須賀商工会議所



竹林整備作業の風景



こどもたちへの竹細工指導

イベント案内は、開催予定日の1ヶ月前までに別途発信します。お問い合わせは、専用ダイヤル(090-9965-2284。9:00-17:00) E-mail(yccyokosuka@googlegroups.com) 又はFax(046-834-8521)までお願い致します